

企業における自然災害リスクとその対応セミナー

マルチハザード時代のリスク評価

開 催 : 2019年9月3日(火) 受付 13:00～, 講演開始 13:30～

会 場 : 東京コンファレンスセンター・品川

主 催 : 応用アール・エム・エス株式会社, 株式会社イー・アール・エス

協 賛 : 鹿島建設株式会社

参加費 : 無 料

OYORMS

応用アール・エム・エス 株式会社

ERS

Engineering & Risk Services

開 催 内 容

日 時 : 2019年9月3日(火)

受 付 : 13:00より

セミナー : 13:30～16:50

会 場 : 東京コンファレンスセンター・品川

5階 大ホール

定 員 : 350名

主 催 : 応用アール・エム・エス株式会社

株式会社イー・アール・エス

協 賛 : 鹿島建設株式会社

◇ 参加申込方法

下記 Web サイトから参加申込を行ってください。

その場で受講証を発行いたします。

<https://www.oyorms.co.jp/>

<https://www.ers-co.co.jp/>

※ 締 切 2019年8月27日(火)

セミナー当日は受講証とお名刺を1枚ご持参ください。

申込者多数の場合、先着順とさせていただきます。

ご了承ください。

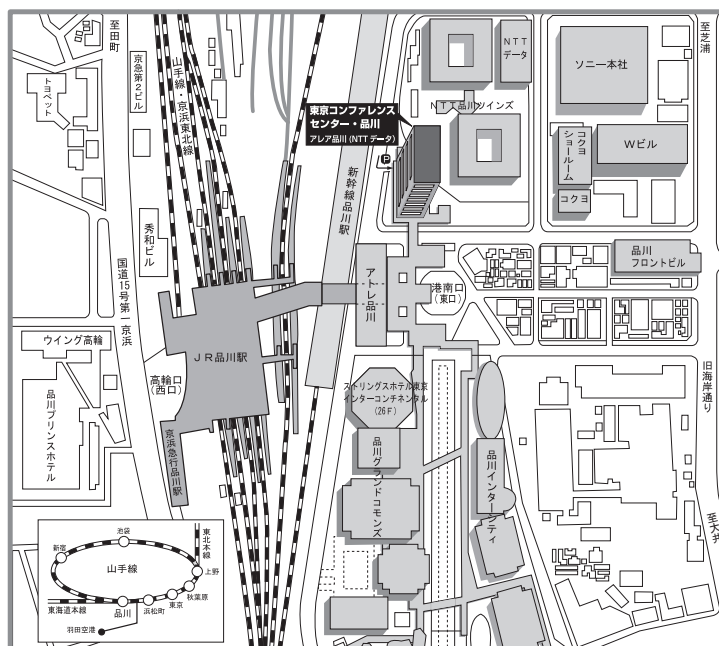
◇ お問い合わせ先

応用アール・エム・エス(株)

TEL: 03-6434-9801 FAX: 03-3479-0163

(株)イー・アール・エス

TEL: 03-5786-0090 FAX: 03-5786-0094



会 場

東京コンファレンスセンター・品川

〒108-0075 東京都港区港南1-9-36

アレア品川 5F 大ホール

TEL: 03-6717-7000 FAX: 03-6717-7001

<https://www.tokyo-cc.co.jp>

交 通

● 電車でのアクセス・

JR 品川駅港南口(東口)より徒歩2分。

駅からペDESTリアンデッキで直結しています。

● お車でのアクセス・

首都高速1号羽田線芝浦ランプから約2km。

近隣の公共駐車場をご利用ください。

企業における自然災害リスクとその対応セミナー

マルチハザード時代のリスク評価

ご挨拶

昨年は、本白根山の噴火、大雪、大阪府北部の地震、豪雨、台風 21 号、北海道胆振東部地震、台風 24 号など数多くの自然災害が発生し、多くの犠牲者と被害がでました。また、災害が年々激甚化する中で対策が進む一方、対策が及ばない脆弱なところで被害は発生することを改めて認識した一年でもありました。このようなさまざまな災害要因に対し、最近ではマルチハザードという言葉が使われるようになっております。

今回のセミナーでは、地震に限らずこうしたさまざまな災害要因を取り上げ、その特徴と評価方法について最近の取り組みをご紹介します。また、高度経済成長期からおよそ半世紀が経過し、自然災害からの面からも大きなリスクとなっている経年劣化の評価手法等についてもご紹介いたします。

本セミナーが皆様のリスクマネジメントの一助となれば幸いです。ご多忙中のこととは存じますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2019 年 7 月吉日

応用アール・エム・エス株式会社／株式会社イー・アール・エス

プログラム

時 間	内 容	概 要
13:00-13:30	受 付／開 場	
13:30-13:40	主催者 開会の挨拶 株式会社イー・アール・エス 代表取締役社長 古澤 靖彦	
13:40-14:10	デュー・デリジェンスの視点による 建物の経年劣化リスクの調査・評価手法 株式会社イー・アール・エス 永澤 浩三	戦後の急激な経済発展期に構築された建物の経年劣化が、大規模改修や建替えといった大きな意思決定を必要とするほどまで進展するケースが散見されています。本講演では、不動産取引の際に適用されるデュー・デリジェンスを援用して、建替えや維持・保全のコスト算定や、コスト比較による意思決定を支援する手法、劣化が及ぼす自然災害リスクへの影響評価等について解説します。
14:10-14:40	南海トラフ巨大地震の最新評価について 小堀鐸二研究所 日下 彰宏	南海トラフ巨大地震の発生は、その人的・物的被害とともに我が国の経済活動に甚大なる影響を及ぼす事が懸念されています。本講演では、直近の内閣府中央防災会議の発表も含めて、南海トラフ巨大地震のプロファイルや被害想定について最新の情報を紹介します。
14:40-15:10	地震後の建物安全性を確認する 3つの手法 株式会社イー・アール・エス 加藤 了英	南海トラフ巨大地震等が発生した場合、建物の安全性を確認できる専門家が不足する事が懸念されています。一方で、帰宅困難者の一時滞在や企業の事業継続、早期復旧のためには、一刻も早い判断が必要とされます。本講演では、地震の被害状況を専門家でなくとも短時間に把握・評価できる、①計測、②目視、③公的情報と解析、の3つのバリエーションを紹介します。
15:10-15:40	コーヒーブレイク	(パネル展示も併せてご覧ください)
15:40-16:10	火山災害リスクとその評価方法 応用アール・エム・エス株式会社 時実 良典	関東地方周辺には富士山をはじめとする活火山が数多くあり、ひとたび火山が噴火すると、人口や産業の集積地での被害や影響が懸念されます。噴火がもたらす社会への影響についてご紹介するとともに、火山に関する政府の最近の動向、弊社の火山災害リスク評価の取り組みについてご紹介いたします。
16:10-16:40	降雨災害とモデル化 応用アール・エム・エス株式会社 若浦 雅嗣	昨年の「平成 30 年 7 月豪雨」は、我国に未曾有の被害をもたらしました。その原因の1つとして、同じ地点で繰り返し雨雲が発達し集中的に降雨が発生する「線状降水帯」の存在が指摘されています。本講演では、降雨と線状降水帯について説明するとともに、豪雨から氾濫に至るメカニズムを簡易に評価できるタンクモデルを使った水害の評価方法をご紹介します。
16:40-16:50	主催者 閉会の挨拶 応用アール・エム・エス株式会社 代表取締役社長 山田 敏博	

参 加 申 込 要 領

下記のホームページにアクセスし、参加申込フォームに必要事項をご記入の上、お申し込みください。
申込完了後、「受講証」が表示されますので、プリントアウトして当日ご持参ください。

また、事務局より申込受付済のEメールが送信されます。申込受付メールが届かない場合などございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

応用アール・エム・エス株式会社 ホームページ
<https://www.oyorms.co.jp/>
株式会社イー・アール・エス ホームページ
<https://www.ers-co.co.jp/>

セミナー当日には、受講証およびお名刺 1 枚が必要になりますのでご持参ください。

なお、ホームページにアクセスできない、また参加申込フォームでの登録ができない場合は、会社名/所属団体名、ご参加者名、部署名、役職名、住所、電話番号、FAX 番号をご記入の上、下記のお問い合わせ先まで FAX でご連絡ください。

折り返し、FAX にて受講証を送付いたします。

申込者多数の場合、先着順とさせていただきます。ご了承ください。(定員 350 名)

■お申し込み締切：2019年8月27日(火)

お問い合わせ先

応用アール・エム・エス株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-9 赤坂 MK ビル

TEL: 03-6434-9801 FAX: 03-3479-0163

株式会社イー・アール・エス

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-9 赤坂 MK ビル

TEL: 03-5786-0090 FAX: 03-5786-0094

主 催 者 紹 介

【 応用アール・エム・エス株式会社 】 <http://www.oyorms.co.jp/>

OYORMS
応 用 アール・エム・エス 株式会社

営業開始 1998年5月（分社のため設立は2006年11月6日）

株 主 応用地質株式会社、Risk Management Solutions, Inc.（以下、米 RMS 社）

事業内容

- ・地震、台風などの自然災害リスク分析サービス
- ・企業の自然災害リスク管理に関するアドバイザリーサービス

特色と実績

米 RMS 社が開発した RiskLink®（自然災害リスク評価システム）※に応用地質（株）が保有する地質・地盤データを組み込んだ RiskLink®日本モデルを活用し、企業の地震リスク対策の提案、投資用不動産や所有物件などのポートフォリオ地震リスク分析、地震保険加入の際のリスク把握など、企業のリスクマネジメントに係る様々なサービスを行なっております。また、高潮・竜巻・火山災害など近年関心が高まっている自然災害リスクに対する研究開発・評価にも積極的に取り組んでいます。

【 株式会社イー・アール・エス 】 <http://www.ers-co.co.jp/>

ERS
Engineering & Risk Services

設 立 1998年11月

株 主 鹿島建設株式会社、応用地質株式会社

事業内容

- ・地震、台風などの自然災害リスク分析サービス
- ・不動産の証券化などにとまなう建物のエンジニアリングデュー・デリジェンス
- ・土壌汚染、アスベストなどの環境リスク診断
- ・省エネ診断、再生可能エネルギー施設のデュー・デリジェンス

特色と実績

災害リスクのエンジニアリング評価・分析分野のパイオニア企業として、特に、生産工場施設に対する地震などの自然災害リスク分析では、高いエンジニアリング力が評価され、多くの実績があります。また、J-REITなどの証券化ビルのエンジニアングレポート作成についても多くのシェアを有し、ガイドライン作成をはじめ業界のオピニオンリーダーとして格付機関などからも高い評価を得ています。

【 両社の関係 】

顧客のあらゆるニーズに応えるべく、お互いの得意分野を補完しあい、相互に協力して、自然災害リスクマネジメント事業を推進しています。

主として、応用アール・エム・エス（株）は多数の保有資産のリスクを対象としたポートフォリオ分析を、（株）イー・アール・エスは個別企業、個別建物のリスク分析を得意としています。

※RiskLink®について

米 RMS 社（スタンフォード大学が母体となり1988年に設立された自然災害リスクマネジメント専門会社）が開発した自然災害リスク評価システム。世界中の様々な自然災害モデル（日本のモデルは地震と台風）を完備し、世界の自然災害に関わる損害保険契約の8割以上で利用され、この分野での世界標準となっています。